

平成27年度事業報告書

自 平成27年4月 1日 ～ 至 平成28年3月31日

- ・ 法人総括報告
 - ・ 法人本部
- ・ 特別養護老人ホーム かりん
 - ・ 施設管理業務関係 ・ 事務管理業務関係
 - (特養事業)
 - (在宅福祉事業)
 - ・ 居宅介護支援センターかりん
 - ・ 在宅介護支援センターかりん
 - ・ 老人短期入所施設 かりん
 - ・ デイサービスセンターかりん
- ・ 特別養護老人ホーム かりん・町田
 - ・ 施設管理業務関係 ・ 事務管理業務関係
 - (特養事業)
 - (在宅福祉事業)
 - ・ 居宅介護支援センターかりん・町田
 - ・ 老人短期入所施設 かりん・町田
- ・ 認知症共同生活介護事業
 - ・ グループホーム いこいの郷成瀬
 - ・ グループホーム いこいの郷赤羽根
- ・ 地域包括支援事業
 - ・ 藤沢東部地区いきいきサポートセンター
- ・ 保育園事業
 - ・ 湘南まるめろ保育園

平成27年度事業報告書

<はじめに>

本年度は法人にとって前半は非常に厳しく、多難な課題を多く抱えたが、後半、地域包括事業を受託することができて明るい未来が垣間見える年度でもあった。

現在の安倍政権は、安保法制の強行成立などを受けて、憲法の見直しに精力的に意欲を集中している。

しかし、依然としてアベノミクスの経済政策の恩恵を受けるのは、大企業と投資集団や金融資産を有する層で、なかなか国民各階層とりわけ庶民には回ってこない状況にあり、経済格差が拡大している。

更にアフリカや中東諸国は軍事的衝突や宗教抗争等から、生存の不安定さは拡大し、ヨーロッパに難民として大挙し流れて行っている。また、ヨーロッパではテロ事件が多発し、生活も脅かされている。加えて東南アジアへの中国の膨張主義的対外政策で、世界でその影響を引きずり、経済政策の展開についても、僅かしか景気回復の兆しがみられない。

また、東日本大震災からの復興はまだ依然として大きな爪痕を残っており、回復のための公共事業や建築物建設等で資材や専門技術者が動いており、関東周辺の建設事業に大きな影響が出て、尚且つ、熊本での震災の勃発や東京オリンピック開催準備から公共工事の必要度の深化で様々な問題に影響を与えており、より一層法人の各事業所の防災対策強化に努めなければならない。

また、少子高齢化の進行と国会での議論のクローズアップで、子供を育てやすい社会環境の整備が急務とされ、今まで集中的に高齢者介護環境の改善に努めてきた国・行政は公共諸政策が保育環境整備に移行しつつある。

永寿会としては昨年4月に湘南まるめろ保育園として保育事業をスタートさせ、公的社会制度拡充に役立てていくと共に、昨年暮れから準備してきた地域包括事業「藤沢東部いきいきサポートセンター」を事業開始で、しっかりと地盤を築いていく。

法人全体としては、平成27年度で運営する事業は6事業となり、新型特養や保育園、地域包括と整備の広がりの中で、新たな飛躍を期して、各施設全体で、理念に基づき、堅実な運営を進め、効率的な人事配置とランニングコストの削減に努めてきており、今後の展望も広げるためにも一層の努力が必要である。同時にこうした展開に合わせて法人組織の再編や職員処遇環境の整備が求められる。

要介護者を抱えるご家族の皆様や行政・地域関係者の信頼と期待に応えると共に、次世代育成の社会環境を改善してゆく時代的要請も一層大きくなって、職員の技力と熱意、関係者の協力、支援の輪を背景に、「あたたか、安心、いきいき」の理念のもと、充実した日常生活の提供と、地域協力の輪の拡充強化に向け努力してき、そのことが困難な面もあるが、法人の未来に結びついていくと思われる。

<総合的総括内容について>

- 1 法人の6事業を夫々の地での展開で、法人組織の点検と再構築、透明性の確保や個々の事業をグループ化し、合理的な把握と展開がより求められこととなった。
- 2 27年4月の「地域包括支援システム」という高齢社会後の制度設計の大きな変化から、給付水準や通所介護の提供体制の変更、加算体制の変化、医療行為に関する環境体制等の課題を解決しなくてはならないこととなった。
複雑な問題も多く、様々な努力をしたが、苦闘の1年間であった。法人全体としては、関係職員の地道な協力や努力を背景に新たな事業展開を進めることができ、次の展開に向けた地盤を固められたが、人事処遇や組織管理等ソフト面で検討改善の方向性を専門機関に業務委託し、改善方向や課題を探った。
- 3 他の産業分野に比較して展望がある「新成長産業」といわれている介護事業へは、様々な企業が子会社を設立して進出し、イコールドフィティングの名のもとに社会福祉法人事業への圧力を強めており、保育事業も同様で、事業展開も人材確保等で苦しめられた。今後は組織運営体制の調整や人事処理の整備に進め、厳しい現状に対応可能な

ように、ハードとソフト両面から検証する必要があることが分かった。

- 4 事業に関わる職員等の人材は特に介護分野では、26年度の影響引きずり、27年前半は色々な課題が出たが、克服の道を一定程度築くことができた。
また、神奈川県高齢者福祉研究発表大会への発表・参加、施設内の研修会や外部研修への派遣を行った。しかし、まだまだ参加状況や内容、人数等に課題を残した。
- 5 事業拡大に伴い、組織体制や財務処理、経理処理等の整備、確立に取り組んだ。
法人本部を設け、各事業所の連携と協調の体制に変更した。しかし、初期段階のため、まだまだ十二分に効果を発揮できていない。
- 6 高度情報社会では情報伝達手段として、IT機能を使いこなさなくてはならない。
法人事業の透明性の確保も要請されていることから、ホーム・ページのリニューアルを効果的に生かすことが必要で、新規事業も包括して再作成し、活用に入っているが、継続的な情報の追加やアップをしなければならない。
- 7 保育園事業は昨年4月の開園から1年間が経過し、最初の卒園児も2名誕生した。
今後も老保交流等各事業間でのプラスプラスの関係を模索する。
- 8 藤沢の「特養かりん」は建設から12年を経過し、ガス冷暖房や電話交換装置等、施設設備備品類で耐用年数が近くなっているため、交換・修理で計画的再整備計画を進めることとなる。

< 法人本部 >

1 定款変更申請認可

(1) 平成27年8月27日 2月より数回の調整協議を踏まえ、下記の内容について関東信越厚生局長へ法人定款変更の申請処理を行った。

①第二種社会福祉事業の追加

- ・ 保育所の経営
- ・ 一時預かり事業の経営

②基本財産の追加

- ・ 特別養護老人ホームかりん町田の土地1, 694㎡、建物1棟3, 532㎡
- ・ 湘南まるめろ保育園建物1棟904. 76㎡

(2) 平成27年12月3日 定款変更の認可書受領。

2 定款変更登記

(1) 平成27年6月17日 下記の内容について法人登記の変更登記処理を行った。

- ・ 法人資産の変更

(2) 平成28年1月20日 下記の内容について法人登記の変更登記処理を行った。

- ・ 第二種社会福祉事業の追加
 - ・ 保育所の経営
 - ・ 一時預かり事業の経営

※ 現在、定款第27条規定の、公益を目的とする事業に対して、「地域包括支援センターの事業」の追加を申請中

3 監査関係

<法人関係>

(1) 厚生労働省関東信越厚生局による指導監査

今年度は対象にならず。

(2) 関係行政による指導監査

<特養かりん関係>

平成27年6月3日 「特別養護老人ホームかりん」を対象として神奈川県保健福祉局介護保険課による実地指導監査があった。

<特養かりん・町田関係>

平成28年2月5日 「特別養護老人ホームかりん・町田」を対象として東京都

福祉保健局指導監査部による実地指導監査があった。

< 保育園関係 >

平成28年1月6日 「湘南まるめろ保育園」を対象として神奈川県民局次世代育成課による実地指導監査があった。

4 選挙について

- (1) 平成27年地方統一自治体選挙県知事・県議 4月12日施行
当施設では4月8日に不在者投票を行った。投票者4名。
なお、今回から選挙管理委員会より外部立会人者1名が投票に立ち会っている。
- (2) 平成27年地方統一自治体選挙市議 4月26日施行
当施設では4月22日に不在者投票を行った。投票者4名。
- (3) 藤沢市長選挙 28年2月14日施行
当施設では2月10、11日に明治市民センターで期日前投票を行った。
投票者4名。

5 理事会・評議員会・監事監査

- (1) 監事監査 平成27年 5月18日
- (2) 平成27年度第1回理事会及び第1回評議員会 平成27年 5月23日
 - ・平成26年度事業報告について
 - ・平成26年度決算報告について
 - ・監事監査報告について
 - ・法人関係定款・規則・規定等の改定について
 - ・小規模多機能居宅介護事業の対応について
 - ・法人職務代理について
 - ・役職者紹介特別養護老人ホームかりん施設長 大橋久高氏
- (3) 平成27年度第2回理事会及び第2回評議員会 平成27年12月5日
 - ・平成27年度前期事業経過報告について
 - ・平成27年度中間決算報告について
 - ・平成27年度第一次補正予算案について
 - ・平成27年度神奈川県監査指導課実地指導監査の報告について
 - ・苦情処理対策要綱に基づく第三者委員の新規依頼について
 - ・藤沢市包括的支援事業業務応募について
 - ・法人定款・規定・規則等の変更改正について
 - ・特別養護老人ホームかりんの副施設長人事について
 - ・特別養護老人ホームかりんの事故報告について
- (4) 平成26年度第3回理事会及び第3回評議員会 平成28年 3月26日
 - ・平成27年度補正予算案について
 - ・平成28年度事業計画案について
 - ・平成28年度事業収支予算案について
 - ・法人関係定款・規則・規定等の変更・改定について
 - ・特別養護老人ホームかりん施設長人事について
 - ・藤沢東部いきいきサポートセンター事業に関する報告について
 - ・東京都定期実地指導監査（かりん・町田）の報告について
 - ・神奈川県定期実地指導監査（湘南まるめろ保育園）の報告について
 - ・職員給与規定第6条の規定に拠らない職員処遇処理の対象について
 - ・いこいの郷花梨（小規模多機能居宅介護事業）廃止について

< 管理・事務 >

1 事務管理

法人本部及び6事業の運営管理を行った。総括事務長が藤沢の事務長も兼務し、全体を調整しながら、総務・庶務、財務、施設管理、介護保険請求等の業務を、兼務の事務長をはじめ、事務主任他3名の職員と非常勤嘱託職員1名、パート2名で対応した。

2 求人募集

(1) 新卒職員募集に関して、秋から初冬にかけて神奈川・東京周辺の短期大学・福祉専門学校を訪問。27年新卒者の採用は2名となった。

平成27年7月8日パシフィコ横浜での第14回高齢者福祉研究大会で、介護保険事業所紹介・相談ブースにおいて一般・学生に施設・事業の紹介を行なった。一定程度アピール出来たと評価している。今後も継続的に対応する。

(2) 求人媒体では、ワーク、新聞折込チラシ、インターネット媒体を用い、また、27年度はマイナビという特化媒体も活用した。そのほか人材派遣会社の紹介制度も活用し、特養「かりん・町田」を含めて、法人全体で多くの常勤職員、非常勤職員を採用した。

しかし、その採用者のうち一定割合の職員は退職している現状があり、こうした傾向は最近の労働市場の変化を受けていて、介護事業への就労意識や意欲の希薄化があると思われる。しかし、昨年後半から新たな採用者が勤務をしっかりと続ける傾向も出てきた。新たな年代の職員の確保と新卒の職員養成の必要性が明らかとなった。

3 ホームページの更新と運営

法人のホームページは法人の情報の発信源として重要で、26年度新しい事業施設の紹介やアピールが必要なため、専門業者と職員で大幅にリニューアルしたが、活用の内容がまだまだ不十分である。法人の透明性の担保や求人情報の発信のため、また、社会福祉法の改正に伴い、情報媒体として対応を求められている。また、社会福祉法の改正に伴い、公表の内容も拡大する。

4 介護報酬について

平成27年度介護保険報酬体系改定の影響や民間事業者との競合がし烈になり、デイサービスや短期入所事業は健闘するもなかなか利用率の向上に困難性が見られる。また特養入居者の介護度も上がり、入院やご逝去も続き困難な面もあるが、各相談員間の協力体制の下、今年も2週間以内の入所対応システムはほぼ維持された。

5 福利厚生

5月6日、9日、12日と3日間、かりん裏山で採取の筍も食材として、業務終了後、職員交流会が開催された。町田の事業所も含め、各事業所から3日間で約120名の職員が参加した。その他、随時各セクションでの交流会等も行われている。

6 浜降祭神輿見学

7月20日、海の日に開催の茅ヶ崎名物行事浜降祭に参加した上赤羽根の八雲大神神輿が町内を練り歩く際の、休憩場所のひとつに「かりん」があり、施設に立ち寄って頂いている。施設行事としても事務職員が連携をとり、本年も神輿の担ぎ手約50人、子供神輿15人、地域の人々（子供含め）約70人をもてなした。施設ご利用者は祭りの雰囲気を楽しむ、神輿と担ぎ手の気迫に元気をもらい、担ぎ手にも喜ばれている。

7 餅つき、どんどやき

例年と同様に、27年度も民生委員主体のボランティア活動として準備・実行され、年末16日に「餅つき」、1月12日に「どんど焼き」と周辺的生活行事を行い、保育園児も参加もし、地域の風習を大切にお年寄りに馴染みのある行事となっている。

8 喫茶コーナーの運営

喫茶コーナーとして開店して約8年。毎週火曜日と金曜日午後2時～4時の喫茶は、多くの入居者にご利用頂いている。元入居者のご家族や関係者がボランティアとなり、お菓子付のコーヒー、紅茶等飲み物を提供している。特に元入居者のご家族2名の方には長期に亘って従事して頂き、心から感謝している。

9 文書管理について

開所して11年経過したので、順次廃棄する文書を整理し、昨年度は個人情報を含む文書は専門業者に廃棄処理を依頼していたが、今年度は少量のため隣地で焼却処分した。

10 施設管理

- (1) 「特養かりん」は築12年を経過した建物管理や機器の補修、維持は、昨年に引き続き(株)コティに委託し、ご利用者の住み良い環境、職員の働きやすい環境整備に努めた。「特養かりん・町田」は清掃と同じ東京アメニクス(株)に業者委託した。
また、「かりん」の施工業者である(株)門倉組に長期的な補修計画と大規模修繕対応の資料作成を依頼し、段階的な修繕への対応も準備し、そのための修繕積立金を進めてきたが、27年度は新規事業の立ち上げもあり、積み立ては資金管理上出来なかった。
- (2) 清掃については、特養「かりん」は障害者雇用の非常勤職員や湘南美装(株)により実施され、清潔な施設環境が作られている。日常清掃は従来と同じだが、しっかりした定期清掃が実施された。特養「かりん町田」も大方整えられている。
- (3) 給食提供は前年度の見直しで、「特養かりん」は、(株)レバストに、「特養かりん・町田」は(株)日清医療食品に、湘南まるめろ保育園は(株)安田物産に業務委託している。
また、藤沢、町田共に「食事に関する会議」を開催し、課題を協議解決しながら、「地域と旬の食材使用」に留意するという基本姿勢で、ご利用者にほぼ満足していただける食事提供に努力し、多様な食形態に対応している。今後ソフト食への対応体制を詰めて一部試験導入を行った。

1 1 防災対策

防災倉庫に非常対策用品と食料品を購入し、保管している。また災害対策については、昼間想定防災訓練(3月)と宿直職員も参加して夜間想定(7月)を実施した。

1 2 研修

管理職や中堅職員だけでなく、一般職員や新人職員も、研修会、講演会にも出席し、技術、対応力の開発・拡充に努めが、職員の異動が多かったこともあり、充実できなかった。堅実な組織と介護力向上のため、コンサルタントによるOJTや浜銀総研への業務委託により人材育成制度設計を検討した。また、マイナンバー制度対応のため関係職員の外部研修参加を進め、また、2~3年後考慮し、アセッサーの育成にも努めた。

資格取得では、本年度は介護福祉士8名が合格した。

1 3 法人内委員会活動 各種会議

開所当初から施設運営を効率的に、職員参加で常に意識向上する形で実施するために「委員会活動」を組織し、確実な活動を進めてきたが、本年度は中堅職員の退職や準備不足から不十分な形でしかできなかった。特養事業では毎日の申し送りや朝礼等でしっかりした伝達体制に努めている。運営上必要な組織として、管理職等による月例の「管理運営会議」を引き続き行った。また、部長職以上で「経営会議」を月2回開催し、重要事項や管理運営会議にかける事項なども協議した。

また、入居者の入所判定を行う「入所判定委員会」も常に月1回以上開催している。

1 4 車両管理について

保有車両の整備点検を的確に進め、人身や大事故も防止出来たが、車両損傷事例は27年度は多発した。重大な事故にならない様に厳重な注意が必要である。町田では法的対応事例が出ている。

藤沢地区では施設長会主催の安全運転講習会にデイやショートの運転業務に係る2名のドライバーにも参加をさせ、安全運転向上に努めた。

事業運営の保有車両は、本部施設に12台、小規模に2台、GH成瀬に2台GH赤羽根に2台、かりん・町田に4台と現在20台の車両と1台のバイクを保有し、サービスの提供の際に使用している。今後は長期間使用車両が増加もあるので、順次更新整備する。

・キャラバン(車椅子対応車)	5台	・シエンタ(車椅子対応車)	1台
・ハイエース(車椅子対応車)	1台	・軽自動車	2台
・セレナ(送迎車)	1台	・普通自動車	1台
・軽自動車(車椅子対応車)	2台	・バイク	1台
・軽自動車(車椅子対応車)	1台	・軽自動車(G・H用)	2台

- ・セレナ（車椅子対応車） 2台 （デイで使用）
- ・ステップワゴン（GH用） 2台

計 21台

1.5 全体朝礼について

部課長からの提案を受けて実施した全体朝礼は、藤沢では平成18年11月から開始したが、平成27年度も日勤の業務開始時の8:30から、約10分間、全職員が1階のフロアに集合し、各階から利用者の状況、各部長・事務長から情報提供、また、理事長や施設長からの訓示（金曜日は各部長）等、当日のスケジュールの確認や情報の共有化を図り、火曜日にはラジオ体操を一斉に行い、健康管理と腰痛の防止にも努めた。また、職員間での連携が密接になり成果を得た。「かりん・町田」も午前10時から同様に朝礼を行っている。